



第 6 号

1989年 3月

岡山県古代吉備文化財センター

▲ 西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様



矢部南向遺跡（昭和62年）

足守川遺跡群の発掘調査終了

昭和55年から実施してきた足守川改修に伴う足守川遺跡群の発掘調査は、断続的ながらも約9年の歳月をかけ、昨年暮れの昭和63年12月によりやく終了することができました。当遺跡群については「加茂A遺跡の調査」や「足守川矢部南向遺跡」として、以前にも当所報で紹介しておりますが、今一度全体を振り返り、検出された遺構・遺物について、簡単にまとめておきたいと思ひます。

足守川遺跡群は岡山市加茂～倉敷市矢部にまたがる足守川河川敷および、その周辺に広がる遺跡群です。河川敷内には、上流から加茂A・B遺跡・矢部南向遺跡があり、これら3遺跡の改修工事にかかる部分、約8,300㎡を発掘調査しました。

当遺跡群は検出された遺構・遺物から弥生時代中期（約2,100年前）～近世初頭（約400年前）にかけてのムラ（集落）の遺跡であることが明



足守川遺跡群

1. 加茂A遺跡
2. 加茂B遺跡
3. 矢部南向遺跡

らかにになりました。

検出された主な遺構は弥生時代中期前葉の溝をはじめ、中期中・後葉の竪穴住居・建物、後期の竪穴住居および前半の袋状土壇・後半の方形土壇、古墳時代の竪穴住居・建物、奈良時代の建物・溝、中世～近世初頭の建物・溝などですが、なかでも、弥生時代後期後半～古墳時代初頭、奈良時代、中世末～近世初頭の3時期に遺跡のピークが認められました。とくに、弥生時代後期後半～古墳時代初頭にかけての遺構密度は最も高く、激しく重複し合って検出されることの多かった竪穴住居、総数約240軒のうち、約220軒がこの時期の住居と考えられます。また、特異な状況を示すものとしては加茂B遺跡の貝塚があります。推定径約10mほどの範囲にヤマトシジミを主体とした貝塚が、少なくとも弥生時代後期全般にわたって形成されており、同時期の住居が幾度も建て替えられる中で、この場所だけは他の遺構との重複関係は認められず、集落の中央部付近で一貫して貝塚の状況を呈していたらしいことです。



加茂B遺跡 貝塚検出状況 (昭和58年)

遺物はコンテナ(長さ55×35、深さ15cmの箱)約4,300箱が出土しました。弥生式土器をはじめ、土師器・須恵器・備前焼、早島式土器・青磁・白磁、土製品、玉類、硯、石鏃・石錘・スリ石ほか石製品、鉄鏃ほか鉄製品、銅鏃ほか青銅製品、古銭、炭化米、ガラス(滓)その他、多くの遺物が出土しましたが、遺構の様子と同様に、大半の遺物は弥生時代後期後半～古墳時代初頭のものでした。以下、この時期の特筆される遺物をあげていきます。

一か所から出土する土器がコンテナ80～140箱前後にもなる土器溜りが、加茂Aおよび矢部南向遺跡から5ヶ所検出されました。これらの出土遺物には破片も含まれるものの完形に復元できる土器が多く含まれており、祭祀あるいは儀式に使われたものではなかったかと考えています。さらに、矢部南向遺跡の二か所の土器溜りと土壇からは、本来は特定の墳墓に限りしが発見されることのない特殊器台の破片が、加茂A遺跡の土器溜りからは鉄剣が出土しました。また、加茂A遺跡の包含層からは線刻絵画土器



矢部南向遺跡 土器溜り出土特殊器台 (昭和55年)



矢部南向遺跡 土器溜り検出状況 (昭和61年)



加茂A遺跡 包含層出土
線刻絵画土器 (昭和58年)

片2点が出土しています。ひとつは壺の口縁部に、家あるいは船と推定されるものです。あとひとつは器台の胴部に描かれたもので、顔の輪郭はハート形で胴部に綾杉状の文様が施されており、人面蛇体線刻と呼んでいます。このような想像上の動物の線刻は極めて珍しいものです。

加茂B遺跡からは前述の貝塚から、吉凶を占ったとされる鹿の肩甲骨を利用した卜骨や、製作途中の銅鏡が出土しており、竪穴住居および土壇から、小型銅鏡2面〔櫛歯紋(径6.5cm)・蕨手状渦紋(径4.5cm)〕が出土しています。なお、蕨手状渦紋鏡はその類例から朝鮮半島で製作されたものと考えられますが、青銅に含まれる鉛同位体比の分析結果によって、その原材料は中国製である可能性の強いことがわかりました。

矢部南向遺跡からは竪穴住居床面下より小銅鐸(高さ6.4cm)が出土しました。小銅鐸は現在全国で30例近く発見されており、県下では真庭郡落合町下市瀬遺跡に続き2例目です。

また、斜面堆積遺物を中心にして遺跡群全体



加茂B遺跡 貝塚出土の卜骨 (昭和59年)



加茂B遺跡 左・櫛歯紋鏡(昭和58年)
右・蕨手状渦紋鏡(昭和59年)

からは、祭祀に関わると考えられている手焙形土器が数10個も出土するとともに、山陰、山陽西部、四国、近畿内など、各地からの搬入土器も比較的多く見つっています。



以上のように、足守川遺跡群からは、矢部南向遺跡 竪穴住居跡 数多くの遺構・遺物 出土の小銅鐸 (昭和62年)が発見されました。特に、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての集落変遷を考えるうえで、貴重な資料が掘りだされました。そのみならず、その遺跡立地や密集する遺構のあり方、祭祀や呪術など当時の弥生人たちの精神文化を探るうえで欠かせない数々の遺物の出土など、足守川遺跡群は吉備中枢部のムラの一端を垣間見せているような気がしてなりません。

(江見正己)

センターの年間事業（昭和63年度）

調査第一課

旭川放水路改修事業に伴う百間川遺跡群（岡山市）の調査は、前年度に続き調査現場3名、報告書作成2名の体制で実施した。今年度調査区は旧国道2号線を挟んだ下流部と上流部にあたる百間川原尾島遺跡（丸田調査区）の低水路左岸である。上流部の調査区でまず注目されるのは、弥生時代後期末の埋没水田に注ぐ分岐水路の検出である。幅約2.3mの南流する水路から分岐した枝水路はS字状に曲がりつつ幅を狭めて水田に注ぐ長さ数mの分岐部を形成している。特に注意したいのは分岐した流入口の溝底に低い土手を残していることである。おそらくこの部分に土塊等を置き水量調整を行っていたことは疑いなく、この取水部にかかる流域水田の規模が判明すれば水田経営の単位を考察する好資料となるであろう。

古墳時代の大溝からは、上層から子持勾玉が出土した。岡山県では2例目の出土である。また下層からは田舟・臼・鋤等の木器が多数出土した。



百間川原尾島遺跡出土 子持勾玉

また同じ調査区の下流側では、古代大溝が検出され、そこに設けられた2ヶ所の堰から人形、鳥形、刀形、齋串などの木製品と刃装着の鎌が出土した。調査者はこれらの出土品が律令に規定されている「祓」の儀式的品々と類似するものとし、その上この地点が推定備前国府から南西1.5kmと近く、この付近に国府の「祓所」があったとして注目している。

中世では室町時代の集落跡を検出した。建物、



百間川原尾島遺跡出土の鎌、人形、齋串など井戸、墓等が一定のまとまりをなし、さらにこれらを取り囲む溝が検出されており備前南部における中世集落の一類型として設定することができよう。

中国横断自動車道建設に伴う調査は4月から12月までの期間を2名の調査員で調査した。調査は川上I・C区（川上村）が中心であった。ここでは前年度の確認調査とさらに今年度の遺跡範囲確定の調査によって、全域およそ14万㎡にわたる工事区中にI区～VI区の調査区が定められた。

中山西遺跡I区では既報のとおり、縄文時代早期の遺構とAT火山灰下層の石器群を検出した。

城山東遺跡では、弥生時代の竪穴住居跡2軒、掘立柱建物1棟を検出した他、蒜山原地方では初めての奈良時代の掘立柱建物群を検出した。建物群は2間×2間の総柱となるもの4棟と2間×3間のもの1棟である。これらの建物はい



城山東遺跡 奈良時代建物

ずれも南北方向に軸線を定めている点に特徴がある。また同時期の井戸状遺構、溝や鍛冶炉跡も検出した。この地域は律令体制下では美作国真嶋郡に比定されるところであり、さらに伯耆国に近く、国境に位置する倉庫を中心とした建物群として特筆されよう。

足守川河川改修工事に伴う発掘調査は、昭和57年以來6年間にわたったが、昭和63年度をもって現地調査を終了した。吉備地方で最も濃密な包含層と、弥生時代後期から古墳時代初頭を中心とする複雑に切り合った遺構群の調査は、調査員を大いに悩ました。その上、数度に及ぶ洪水の浸水等悪戦苦闘の調査であった。残された膨大な遺物の整理と報告書作成が継続できないのは非常に残念である。

緊急対応事業ならびに市町村指導の調査は別表のとおりである。内訳は圃場整備事業に伴う国庫補助事業2件、道路関係3件、工業団地造成1件、民間開発1件、その他1件である。中でも、都市計画道路、万成～国富線建設に伴う仮称津島遺跡関連(岡山市)は、昨年度の確認調査で建設地全域約12,000㎡に水田・水路と小面積の微高地が広がることが予測された。今年度は遺跡の北側の水路建設地のわずかな面積を調査したが、新たに遺跡地の西側(国道53号線より)に微高地が遺存していることが判明した。

市町村指導調査の畑沖丹摩古墳(美作町)は、すでに破壊された小規模な横穴式石室に陶棺身部の1/2部が残っていたのみであったが、調査の結果、陶棺の小口部に粘土紐のはりつけと板状工具による同心円文を主体とした文様が描かれていることが判明した。この古墳は、出土



畑沖丹摩古墳出土陶棺

須恵器からみて7世紀中頃の築造と推察される。また周溝部の調査では鉄滓が3個出土している。東京国立博物館所蔵の美作町平福出土の陶棺は本古墳から直線距離にして約5.5kmと近接していることから、これら飾り付け陶棺の性格を究明する上で新知見を得た。(河本 清)

調査第二課

本年度における調査第二課は、調査員の増員、係の増設など組織体制を整え、急がれる山陽自動車道の建設にかかる調査に、専任することとした。順次、南から北へと遺跡の概要を記すと、以下のとおりである。

岡山市津寺にある前池内4号～7号墳の4基は、新たに発見されたもので、いずれも平均的な大きさの横穴式石室をもった後期古墳。前年度に調査を完了した3基と合せ、古墳群のほぼ全容をつかむことができた。とくに5号墳の羨道入口付近から出土した蓋杯の、扁平なつまみに「官」逆字押印のあることがわかり、被葬者のどういう階層が「官」印を入手できたのか、話題となった。

また津寺散布地B・Cも、さらに北方へと遺



前池内5号墳出土須恵器

跡範囲がひろがり甬崎天神山の南斜面にまで及び、円墳3基、方墳4基、土塚墓多数などが検出された。うち横穴式石室をもつ円墳は、玄・羨とも床に小円礫を敷き、さきの前池内古墳群のそれが平扁な角礫によって床を構成するのと同様の、谷ひとつ隔てた群構成の質の違いを見せつけ、注意を喚起させた。

甬崎天神山遺跡においては、同地内において遅れていた神社と墓地との移転が決まり、以後

の調査で中世天神山城の全体像が明らかになるとともに、弥生後期の集団墓がその姿をあらわした。それは、木棺墓・土壙墓を合せて31基と、7基の壺棺からなる。木棺墓の中には、人骨や朱をとどめるもの、管玉や石鏃を埋納した例がみられ、また壺棺の一つには4点のガラス玉を納めたものもあった。

次に本年度、発掘調査の中心舞台となったのは、岡山ジャンクションが設置される足守川の下流域左岸、沖積平野に形成された広大な津寺遺跡である。位置するところは、古代瀬戸内航路の要地であった吉備津から北へ約4km、律令制下の大路山陽道の北およそ2kmにあたり、近くには、南に橋築弥生墳丘墓、西に造山古墳をのぞむ、古代吉備の中核ともいべき場所を占める。胃袋状をなすジャンクションの総面積はほぼ60,000㎡。余りにも広大な対象面積のため、本年度の調査は、ジャンクション中央の植栽部分およそ8,000㎡をのぞき、建設を急ぐ橋脚部や水路掘削部を先行するという変則作業となり、ここでの全面調査は合計約37,000㎡にとどまる。遺構の密度はきわめて高い。まず注目されるのは縄文時代晩期に属する土器片の出土。しかしその数量はわずかで確かな遺構も不明である。弥生時代前期の遺構もなお少く、不整形土壙数基を数えるにすぎない。弥生時代中期後半にな



津寺遺跡（中屋H2区・奈良時代遺構）

ると、ひとときわ遺構密度が高まり竪穴住居址をはじめ袋状土壙群や土壙、土器片がぎっしり埋った水路など、着実に人口増をもたらした形跡がうかがえる。弥生時代後期のものとしては、竪穴住居址、多数の柱穴、袋状土壙、土器棺、土壙などがあり、出土遺物の量もおびただしい。古墳時代初頭、およそ4世紀初めには、集落がいわゆる拡大するようで、亀川上層期に属する方形または隅丸方形の竪穴住居址がどの調査区でもおり重なり切り合って、検出される。一辺4～5mの規模のものが多いとはいえ、ベッドを有するものとそうでないもの、さまざまな大きさ、柱の数の違いなど、格差も顕著である。住居址内出土の土器もまた、在地産に混じえて大和系、山陰系、九州系と多様で、著しい交流のあとを物語っている。うちの一棟からは内行花文鏡片が出土して関心をよんだ。さらに、古式須恵器を伴う竪穴住居址や土壙・水路も検出されているから、これまで空白であった5世紀代の村落の様相も一定程度判明するのではないかと期待される。古墳時代後期、およそ6世紀の竪穴住居址も所々で見つかり、方形プランの一辺にかまどの取り付く事例が増え、中には住居址内に鍛冶炉および鉄片の出土したものあって、注目を集めた。7世紀前半の飛鳥様式をとどめる軒丸瓦片の出土も特記すべき発見といえる。これは瓦当部5分の1でいどにすぎないものの復原径17cmぐらゐの素弁8弁蓮花文とみられ、今日まで県下に類例がない。奈良期、8世紀代の遺構として注目されるのは、ほぼ一町四方の地割りと、その内に発見された建物群の跡である。建物跡はみな大型の掘建て柱によって組まれ2間×4間を基本形とし、南北方向に棟を通し、また東西に棟をそろえ、整然と配置されている。ただちに都宇郡衙跡と断定する根拠はないが、何らかの公的施設であることに間違いはなからう。

重要遺構の発見はさらに続く。ジャンクションの北端で、標高4mばかりの安定した微高地はとぎれ、地形は北にむかって下がる。ここでも驚嘆に値する遺構が露呈してきたのである。それが、ほぼ北から南へ流下する幅約50mの旧

河道および築堤の跡とわかるまでには相当の時間を要した。河岸には幾本もの杭を打ち、横木を渡し、崩れを防ぎ、法面から河床にかけては葦や茅で編んだアンペラを数10層も敷きつめ補強して、兩岸には高さ2mばかりの堤防さえ築く、という施設なのである。人工的な盛土の下にはさらに、数千本の割り材を垂直にあるいはやや斜めに深く打ち込みそこにも横木をはさみこんで、厳重な基礎固めを図っている。7世紀前葉の土木工事としては全国的にも例をみない、貴重な遺構といってよい。

以北の丸田、土筆山、向原、沼、丸川、砂田



津寺遺跡（野上田調査区・河道遺構）

と呼ぶ各調査区からも、中・近世の水田跡や中世村落の一端をうかがわせる住居址と墓が、多数の遺物を伴って検出されている。



津寺遺跡（土筆山5区・建物跡）

ふたたび足守川をこえた岡山市高塚地区の発掘はやっと緒についた段階で次年度に本格的な調査を展開する予定である。

上記のほか、岡山市富原に建設予定の岡山インター内においても、富原大池奥山遺跡の確認調査を終了し、同時に富原西奥古墳を新たに見つけ、完掘した。無袖の小横穴式石室を内部に設けた、一辺10mでいどの終末期古墳と判明した。（葛原克人）

普及啓発事業

県下の埋蔵文化財保護行政を担当する事務職員および専門職員を対象に、埋蔵文化財行政の一層の理解と県下の埋蔵文化財保護の進展を図る目的で、埋蔵文化財担当職員研修会を平成元年2月10日に実施しました。

研修会は、49名の参加があり、午前中に文化課伊藤晃氏の講話「開発と文化財保護」と文化



埋蔵文化財担当職員研修会

財センター井上弘氏の事例発表「二子14号墳の調査と移築」を、また午後には草戸千軒町遺跡調査研究所所長松下正司氏の講演「河川開発と埋蔵文化財」を行ないました。

また、今年度は一般の人々を対象とする現地説明会を百間川原尾島遺跡（岡山市、10月）、中山西・城山東遺跡（真庭郡川上村、11月）、津寺遺跡（岡山市、3月）で開催し、各遺跡とも100名をこえる人々が参加されました。



百間川原尾島遺跡 現地説明会

岡山県古代吉備文化財センター発掘調査一覧表(昭和63年度)

	遺跡名	所在地	調査の原因	遺跡の内容	調査期間	面積(㎡)
①	荒神風呂遺跡・古墳	真庭郡落合町	県営工業団地	弥生～中世集落跡、古墳	4/11～7/29	3,550
②	滝・鐘鋳場1号墳	玉野市滝	土取り工事	古墳時代前期の小方墳	10/13～10/15	200
③	津島遺跡関連	岡山市学南町	都市計画道路	弥生～中世集落跡、水田	12/1～1/28	312
④	中山小池古墳群ほか	真庭郡落合町	宅地造成工事	古墳3基、散布地	4/11～8/15	500
⑤	天満遺跡	都窪郡山手村	園場整備	集落跡、散布地	7/11～11/15	1,050
⑥	中原遺跡ほか	津山市金井、中原	○	集落跡、散布地	10/24～2/3	400
⑦	友野散布地	英田郡美作町	○	中世集落跡	5/11～6/28	283.5
⑧	大開遺跡	苫田郡鏡野町	企業誘致	弥生～古墳集落跡	8/1～8/12	1,147.8
⑨	池新田・新屋敷遺跡	赤磐郡山陽町	県道改良事業	弥生～中近世集落跡	10/11～2/6	3,850
⑩	畑沖丹摩古墳	英田郡美作町	崩壊防止	7C中頃の陶棺をもつ古墳	10/15～11/4	50
⑪	足守川矢部南向遺跡	倉敷市矢部	河川改修	弥生～中近世集落跡	4/1～3/31	1,300
⑫	中山西遺跡	真庭郡川上村	中国横断道	縄文時代住居跡、旧石器など	4/1～9/30	2,816
⑬	城山東遺跡	○	○	奈良時代建物跡、弥生時代住居跡など	8/1～12/31	7,355
⑭	小川第1散布地	真庭郡湯原町	○	確認調査	11/1～11/30	135
⑮	小川第2散布地	○	○	確認調査	11/1～11/30	65
⑯	保木西遺跡	赤磐郡瀬戸町	山陽自動車道	確認調査	1/1～3/31	108
⑰	保木池じり遺跡	○	○	確認調査。横穴式石室	1/1～3/31	295
⑱	松尾窯址	○	○	確認調査。火葬墓	1/1～3/31	288
⑲	松尾2号墳	○	○	確認調査。横穴式石室、陶棺	1/1～3/31	0
⑳	松尾4号墳	○	○	確認調査。陶棺	1/1～3/31	16
㉑	百間川原尾島遺跡	岡山市原尾島	百間川改修	弥生時代～中世の集落跡 弥生時代の水田。古代の大溝、祭祀用か？	4/1～3/31	2,520
㉒	前池内古墳群他	岡山市津寺	山陽自動車道	横穴式石室4基、弥生時代の竪穴住居跡	4/1～7/11	990
㉓	津寺散布地B・C	○	○	弥生時代中期の竪穴住居跡、方墳、円墳	4/1～6/13	957
㉔	南崎天神遺跡	○	○	山城跡、弥生墳墓	4/5～1/7	3,093
㉕	津寺遺跡	○	○	縄文時代から弥生時代、古墳時代、奈良時代にかけての重複遺跡	4/1～3/31	37,144
㉖	三手遺跡	岡山市三手	○	中・近世の集落と水田跡	4/1～12/8	20,476
㉗	高塚遺跡	岡山市高塚	○	弥生時代集落跡	2/7～3/2	140
㉘	富原西奥古墳	岡山市富原	○	終末期の横穴式石室墳	4/5～6/13	300
㉙	小原A・B遺跡	久米郡中央町	道路建設	近世墓	5/16～5/20	50
㊀	土井遺跡	小田郡矢掛町	園場整備	弥生中期～後期集落跡、製鉄跡	6/13～6/30	420
㊁	三月田遺跡	英田郡東栗倉村	○	中世製鉄遺跡	8/16～8/17	80
㊂	鹿田遺跡	岡山市鹿田本町	病院建物	中世包含層	10/18	10
㊃	馬屋遺跡	赤磐郡山陽町	道路改修	奈良時代集落、官衙	11/24～12/27	250
㊄	岡山城内堀	岡山市表町、天神町	地下駐車場	岡山城内堀	2/8～2/21	150



編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-01
岡山市西花尻1325-3
電話 (0862)93-3211

●交通案内

- ・JR山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
- ・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- ・JR岡山駅下車岡電バス岡山駅前より
神道山行終点下車徒歩5分